

仏法領ぶつぽうりょう

第73号

発行：真宗大谷派
 念信寺
 〒824-0202
 福岡県京都郡みやこ町
 町岸川上高屋761
 ☎ 0930-42-0329
 Fax 0930-42-0502
 ホームページ
 nenshinji.org



「水」
 毎日
 水に生かされている
 暮らし
 顔を洗い 水を飲み
 ご飯を炊く
 時には水不足や大雨
 に悩まされる
 水を得ることで失う
 ふるさともある
 私達の未来は
 水と共存することが
 出来るだろうか
 いや共存していかな
 ければならない

(写真・文 大迫 光浩)

今年(平成30年)3月、地元、伊良原ダムが竣工した。



7月21日、美しい夕焼け、境内で。



7月6日13時30分頃—
高屋川、道路冠水



秋、高屋、Sさん。田も終わりでしたね！

ご案内

秋のお彼岸法要

9月28日(金)

〜30日(日) 昼・夜

勤行 正信偈念仏和讃

法話 瓜生 崇 師

住 職

(滋賀県東近江市玄照寺)

お誘い合わせてご参詣ください

※詳しくは第4面をご覧ください

教えを聞くとは？

寺離れ

今年は豪雨、台風、地震と日本列島は災害に見舞われています。上の写真を見ながら、日々の暮らしは自然の中の営みだとあらためて感じます。何事が身近におこるか分からないのだと。

ところで昨今の風潮として、寺離れという事を聞きます。都市部の傾向として葬儀などの時はお寺に頼むがそれ以外は付き合いたくない、と。住職から言えば、お寺と付き合うというのは教えを聞くということですよ。法座の雰囲気に触れてほしいのです。

生きる意味

女優の樹木希林さん死去の報道の中で、彼女が出演した映画『あん』の次の言葉に出遇いました。私たちはこの世を見るために、聞くために、生まれてきた。この世はただそれだけを望んでいた。だとすれば、何かになれなくても、私たちには生きる意味があるのよ。

世の中の役に立たない人は生きる意味がないという考え方に對して、存在するだけで尊いという深いところから出て来た言葉ですね。

願われている世界

ボランティアで出会った方たち、年配で都市部に住んでいる人が多いのですが、私が僧侶ということを知っているの配慮でしようが、やはり「感謝」が大切ですねと当然のように言われます。

踏み込んで発言をする間柄ではないので、次の言葉を思わず呑み込んでしまっています。

自分にとって都合の悪いことは起らないでほしいと祈り、都合の良いことは感謝する。そんな生き方しかできない、その自分が問題だと教えてもらうのが宗教(仏教)ではないでしょうか。都合の悪いこと、困った状況の中でも、大切に生きてゆけるあなたになれと無条件に願われている世界があると教えられています、と。

ひと

今回は下伊良原にお住まいの〇さんを紹介いたします。



〇さんは、昭和十七年生まれで、お歳は七十六歳とのことでした。

本年の三月に伊良原ダムが竣工しました。ダム建設の話が起きてから約五十年。ひとの半生にゆうに相当する実に長い話です。

〇さんは家が湖底に沈むという地域の、先祖代々からの住居者だから、否応なしのダム問題の当事者であったといえます。当事者も問題に浅くかわった人もいれば、深くかわった人もいます。お話を伺うと、



もちろん、〇さんは深くかわかってこられた人だとよくわかります。先に、人の半生に相当する長い時間と書きましたが、

〇さんにとってはまさに半生以上の年月だったのです。十人十色といって、人が十人集まればそれぞれに違う人格の持ち主だから、意見を合わせることは大変難しい。約百戸あった水没対象者は五つのグループに意見が分かれたとのこと。

父祖から受け継いだ田地畑を湖底に沈めることは絶対許せないというグループもあるし、この機会に便利のよい都会地に移ろうと考えているグル

ープもあるし、被川は未整備のために過去何度も水害を起こしているために治水が第一目的であるダム構築を行政が決めた以上、計画を撤回させることは無理があるからいずれば条件をつけてダム建設を認めよう、というグループもある。



〇さんはこの第三グループに属したとのこと。もつとも、ダム建設を認めるといっても唯々諾々と行政に従うわけではない。現在、国の行政官でも自分たちに不利とみれば、知らぬ、存ぜぬと無責任極まりない風潮がみられる。ダムは県営事業だから県の行政官は数年任期で交代する。何か約束をしても官吏は前任者からはそんな約束は引き継いでないと逃げ勝ち。だから、行政には断固とした態度で臨まなければならない。

〇さんは、若い時に村の青年団活動に積極的に参加し、県の青年団体の役員、さらに国の青年団体の役員を務めたとのこと。そんな経歴をかわれて対ダム問題の第三グループの事務局次長、事務局長を長年務めてこられた。区長も十年勤められたとのこと。意見を集約してまとめる役目の人物が必要。



お話を伺っていて筆者がフト考えたことは、〇さんがかくも長い時間にわたって運動を続けられたエネルギー源は何だろうということ。

まず思いつくのは、生まれ故郷に対する深い愛情であろうかと思われる。親兄弟だけではなく近郷の小父さん小

母さん、同級生、先輩後輩たちが居て遊び揉まれてくる中で成長してきたことは間違いのないところでしょう。また、人間だけではなく周囲の山川草木、一石一鳥も人の成長に役立ったに違いない。要は、厳しい山村のなかでの暮らしは、人はお互いが助け合ってゆかなければ生きてゆけないことだったと思われる。これらのことが相俟って、



〇さんの根底にある人に対する優しさ、ものや事物に対する慈しみの心が醸成されたに違いありません。基本的には人に対する優しさ・思いやりが、緒方さんの長年運動を続けられたエネルギー源となったのではないのでしょうか。

〇さんたちのグループが掲げた三つの目標は、

一つには、湖底に沈む住民たちの新たな代替の住居地を確保して欲しいこと。

二には、村の存続に資するような事業を手掛けて欲しい。特に医療設備の開設を計ること。

三つ目には、伊良原の自然を活かすような事業を起こして欲しい。あと五町歩の森林公園整備事業を残して、要望事項は全部完成させたとのこと。

に発見される。これらのものはそれこそ先祖代々の地域住民の情念が籠ったものだからおろそかには扱えない。個人的には土葬跡の骨が発見される。これもおろそかにはできない。



〇さんは仏様の担当だったので、工事期間中はいつもロウソクとお線香を持って回らなければならなかったとのこと。遺骨が出れば仏事を行い焼骨し直して、身内の判るものは身内に引き渡し、身内不明のものは無縁仏として処理したということ。

こんなことでも、〇さんの人柄がよくお分かりになると思います。愉快な方でした。

残念ながら、奥様は家の新築が完成する前後に病気でお亡くなりなされたこと。現在は子供さんとお住いとのこと。

(阿部正紀・記)

今号は今年竣工した伊良原ダムを取りあげました。ダムのことならこの人に聞かないと、〇さんにご登場いただきました。

ダムに取り組み課題の一つは将来にわたり故郷をいかに護るかであったと聞いています。町おこしイベントの開催動機にも同じ発想があります。では、豊かな生活とどのような暮らしでしょうか？モノやお金でしょうか。心の豊かさとはどういうことでしょうか。それぞれご意見があるでしょう。単に行政課題に終わらない広さ・深さを持って表現できる人は少ないと思います。(住)

秋のお彼岸法要のご案内

朝晩ずいぶん過ごしやすくになりました。皆さまいかがお過ごしですか？ご法座を左のように開催致しますので、どうぞお参りください。

●日時 九月二十八〜三十日

日時	午後一時〜	午後七時〜
二十八日(金)	法話 瓜生先生	法話 瓜生先生
二十九日(土)	法話 瓜生先生	法話 住職
三十日(日)	落語会	

講師

● 瓜生 崇 先生 (二十八日昼〜二十九日昼席)
滋賀県東近江市 玄照寺住職
日本脱カルト協会理事 響流書房代表



瓜生先生のコメント

1974年東京生まれ。電気通信大学在学中の1993年に浄土真宗親鸞会に入会。1998年より同会の専従の講師として布教やインターネット対策にかかわり、2005年に脱会。その後、自身の体験を元に講演活動や大学でのカルト対策、脱会者へのサポートを通じてカルト問題に関わってきた。(日本脱カルト協会ホームページより引用・抜粋)

世話人会議報告

日時

二〇一八年八月三〇日(土) 午前十一時より

開催場所

念信寺庫裏お内仏

出席者

世話人21名 責役・総代4名
住職、坊守、前坊守3名

(欠席事前連絡2名、連絡なし1名。
事前連絡の方には、議事に関して議長



議事内容

- 2017年度本山納金決算について
大東勝俊前総代より監査報告。
- 2018年度本山納金について
本山納金の依頼額を門徒数で割ると5千円をお願いすれば足りることから、昨年同様の額をお願いすることになりました。
- その他
来て見てギャラリーへの参加、委員長に吉田正和氏が推される。

お寺でイベント 秋彼岸法要

お寺で落語会

●日時● 2018. 9月30日(日)
昼 13:30 からお勤め
14:00 から落語

●場所● 念信寺本堂
みやこ町藤川上高路 761
電話 0930-42-0329
http://nenshinj.org

卓球不要
木戸銭不要



桂 梅園治 橋家 蔵之介 桂 小梅
東京と大阪、東西の両打が共演する珍しい落語会です。
興味のある方は是非いらしてください!

- ◆四代目 桂 梅園治 (桂梅園治門下・1980年入門・上方落語協会所属)
- ◆二代目 橋家 蔵之介 (橋家蔵之介門下・1981年入門・落語協会所属)
- ◆桂 小梅 (桂梅園治門下・2011年入門・上方落語協会所属)



法座予定

二〇一八年

●(ご)正忌・報恩講
十一月二十一(水)〜
二十四日(土)

藤澤 信照 師

(滋賀県東近江市浄光寺
本願寺派行信校講師)

二〇一九年

春彼岸法要

三月三〇(土)〜

四月一日(月)

祖父江 佳乃 師

(名古屋市有隣寺住職)

皆作永代経法要

六月二十九(土)〜

七月一日(月)

松月 博宣 師

(糸島市海徳寺様)

あとがき
法座の案内が遅くなるのは、寺報がでないからです。すみません。委員さんから原稿はすぐにいただけるのですが、編集作業が遅くなってしまう。愚痴を言えば、パソコンが遅い!(誰のせいにも出来ない)

▼今年が秋がこないのではと思えるような猛暑日が続きましたが、立て続けに発生した台風とともに一挙に秋到来。涼しいのか暑いのか分からないような日々の中、彼岸花が咲き始めました。▼今年の夏、私は何をしていったんだろうか。ゴーヤ、きゅうり、シントウ、バジル。朝晩水やりをしたにかかわらず、収穫はわずかでした。▼さて、土台を改善したプランターには今度フリージアの球根を植えます。



↑ 推進員後期教習、8月21〜23日京都東本願寺。右斜め上は7/22前期教習(全3回)



↓ 8/7京都組門限



8・2盆前おみかき